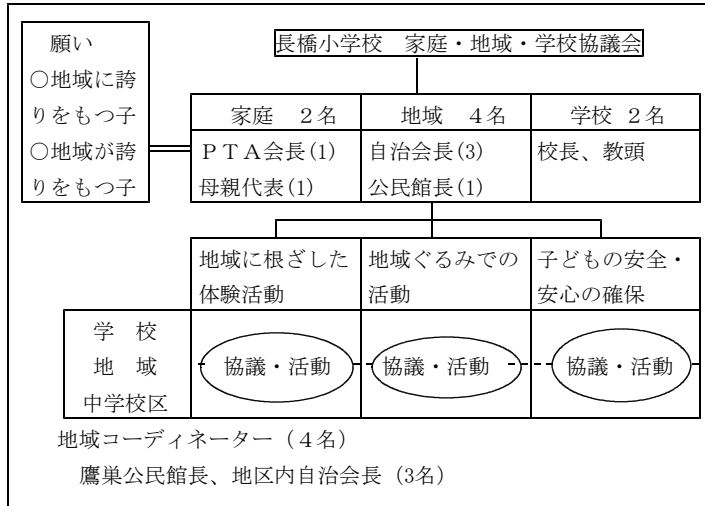


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ・開催回数 3回
  - ・開催日程 6/16、12/14、2/21
  - ・協議内容
    - 第1回・・・学校の教育方針の説明  
地域への依頼  
地域の願いや要望等
    - 第2回・・・中間評価（研究・行事）
    - 第3回・・・評価と次年度へ
- ※中学校区PTCA 7/18、1/28  
鷹巣地区の取組や課題についての検討、共通理解

(3) 協議会における成果と課題

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の自然や産業、人との関わりの中で、地域のよさを再認識したり、課題を解決したりする活動を通して、ふるさと長橋地区や福井市に誇りと愛着をもつ児童を育成する。

(2) 活動の実際

① 「わかめ」 & 「梅」プロジェクト（全年生）

今年も、地域で昔から行われている「もみわかめ」作りと「梅」を守り続けていこうと、全校児童で取り組んだ。

5月15日の朝、長橋町の漁港へ出かけ、地区の方といっしょに収穫されたばかりのわかめ干し作業を行った。今年も、収穫されたわかめから芽株を切り離す作業と、ネットに広げながら干す作業を行った。最高学年である5年生1名と4年生4名を中心に、子どもたちも一生懸命作業を進めることができた。数日天日干した後、学校で「もみわかめ」にして、全校で給食のご飯に振りかけておいしくいただいた。

昔から続いている「もみわかめ」作りではあるが、受け継ぐ家も随分と減ってきており、地域の食文化をしっかりと守り伝えていきたいと考える地域の方々といっしょに、現在も全校で取り組んでいる。

また、菅生地区で栽培されている福井梅を使って、



ディホーム訪問で地区のお年寄りの方々に手作り梅干しをプレゼントすることと、体育大会に来られた地域の方々や鷹巣幼小中学校との合同マラソン大会後に鷹巣幼小中学校の友達にも梅ジュースを飲んでもらうことを計画した。

そこで、6月24日、北菅生町の梅園に出かけ、地区の方に指導してもらい、全校児童で梅もぎ体験を行った。収穫した梅を使い、地区の方に教えていただき梅干しや梅ジュースなどに加工した。自分たちで作った梅ジュースはほどよい甘酸っぱさで、体育大会に来られた地域の方々やマラソン大会

後の鷹巣幼小学校の子どもたちにも大変好評であった。梅干しもデイホームのお年寄りの方々に大変喜んでいただけて、子どもたちも満足そうであった。

生活科・総合的な学習発表会では、児童が梅と日本文化との関係を万葉集や古今和歌集などから調べたり、長橋地区で梅を育てることになった経緯などについても調べたりして、保護者や全校児童の前で発表した。その中で、マラソンの後にみんなで飲んでいる梅ジュースや梅干しの効果についてもクイズなどを交えて紹介し、聞いていた子どもたちも梅の素晴らしさについて理解することができた。しかし、梅の世話や管理が大変で、菅生地区の梅栽培は高齢化によりだんだんすたれてきていることも分かった。



## ②「花いっぱい」プロジェクト（3年生以上）

今年のもう一つの取組を3年生以上で考え、校区を花でいっぱいにすることに決まった。どんな花がいいのかと、自分たちにできることを話し合い、春になるとたくさんの花を咲かせるビオラと水仙などを中心にした寄せ植えにすること、花が咲く頃に校区の全戸にプレゼントすることに決めた。

11月に入り、3年生以上でビオラの苗と水仙、ムスカリの球根を植え、水やりや肥料やりなどの世話をしてきた。今後、ビオラがしっかりと咲き、水仙やムスカリがつぼみを付ける2月末から3月はじめに、子どもたちがメッセージカードを付けて校区全戸に花鉢をプレゼントする予定である。

## （3）地域コーディネーターの活動概要

- 昨年度まで「わかめ干し」でお世話になった方から今年是不漁でできないとの連絡があり、コーディネーターに相談し、近所の方を紹介していただいた。
- 6月16日（日） 第1回地域コーディネーター会 親子ふれあい学級後実施
  - ・もみわかめ作りの経過報告と梅もぎ、梅干し作りの予定を確認した。
- 12月14日（土） 第2回地域コーディネーター会 親子ふれあい学級後実施
  - ・取り組んできた地域関連行事についての意見交換とキャリア教育やデイホーム訪問についての意見をいただいた。
- 2月21日（金） 第3回地域コーディネーター会
  - ・今年度の取組の報告と次年度に向けてのアドバイスなどをいただく。

## （4）特に工夫した事項

- 地域の一員として、地域の伝統的な食や産業を継承する取組を継続してきた。
- 地域を花でいっぱいにすることで地域が明るく元気になるように、地域を巻き込んで進めていけるような取組を行った。

## （5）成果と課題

子どもたちは地域の方々の協力を得ながら、地域に昔から伝わる「もみわかめ作り」と「梅もぎ」、「梅干し作り」などの体験学習に、意欲的に取り組むことができた。また、これらの学習から梅に関わる歴史や日本文化、効能、地域との関係について学びを広げ、発表することができた。楽しいだけの体験学習で終わらせることなく、地域で栽培されている「梅」から課題を広げ、自分たちの学習や生活にも関わっていることを学べたことや、地域の梅栽培が抱えている課題に気付いたことは、成果であったと考える。

今後は、輸入品に押されている「もみわかめ」作りから学びを広めたり、高齢化の進む地域の現状や活性化について考えたりしながら、地域を巻き込んだ元気なまちづくりに役立つ取組を考えていきたい。